

世界のアボカド産業 成長の10年

FreshFruitProtal 2023年5月11日

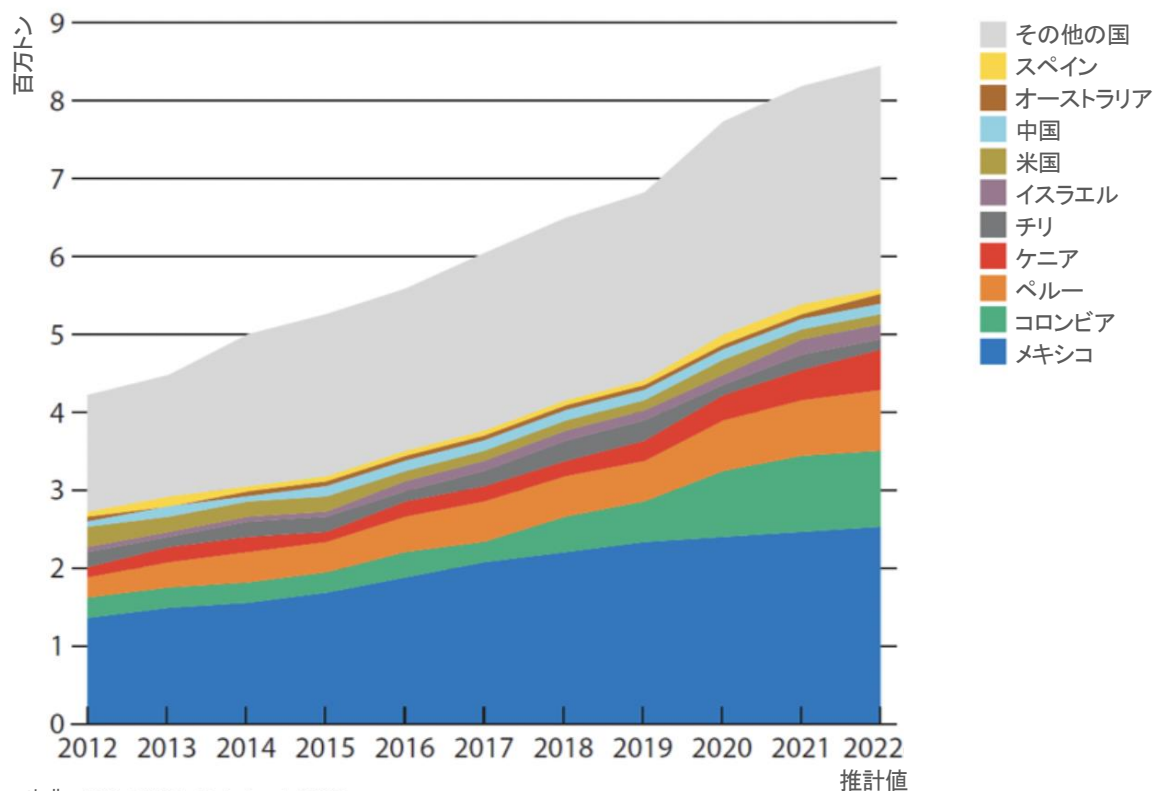
過去10年間でアボカドの消費量が急増し、生産量と貿易量と同じ方向に導いていることが広く報告されている。いわゆる「緑色のゴールド」の需要の増加により、果実の価格が上昇して青果物の中でのプレミアム商品となり、消費者のほか、その収益性のために特に生産者から強く望まれている。

ラボバンク(オランダの金融機関)による2012年から2022年までのデータを分析した新しい報告書によると、世界のアボカド市場は現在約180億米ドルの価値がある。報告書は、「今後数年間、アボカドの取引は成長を続けるであろうが、市場はより競争が激しくなり、市場の運営者は効率を高めるだけでなく、ますます持続可能になる必要がある。出回り量は安定していると予想されるため、消費者は主要市場で比較的手頃な価格の恩恵を受け、このスーパーフルーツの人気が高まるだろう」と記述している。

世界のアボカド出荷量はわずか10年で急速に増加し、2022年には合計840万トンとなり、成長率は年7%であった。報告書は、現在世界のアボカド出荷量の30%を占め、過去10年間で6%増加したメキシコをはじめとする世界の主要産地をカバーしている。

メキシコのほか、世界のトップ10の生産国には、チリ、コロンビア、ペルーの3つの中南米諸国が含まれる。コロンビアとペルーの出荷量はそれぞれ15%及び12%増加し、現在、世界の出荷量の12%及び9%を担っている。

図1 世界のアボカド生産量は急速に増加



一方、米国は2012年には輸出国トップ10(下図)に登場していたが、その後、スペイン、オーストラリア、イスラエル、ケニアなどの国々が出荷量を増やしたことにより順位を落としている。

上位生産国のこの地理的な多様性により、収穫期が補完的であるため、アボカドの世界的な周年供給が保証されている。

主要輸出国及び輸入国

輸出量が年平均8%で増加しているとは言え、2022年には「ペルー、ケニア、南アフリカ及びモロッコからの輸出量の増加が、メキシコ、スペイン、チリ、イスラエルの生産量と輸出量の減少を補い切れなかったため」、5%の減少となった。

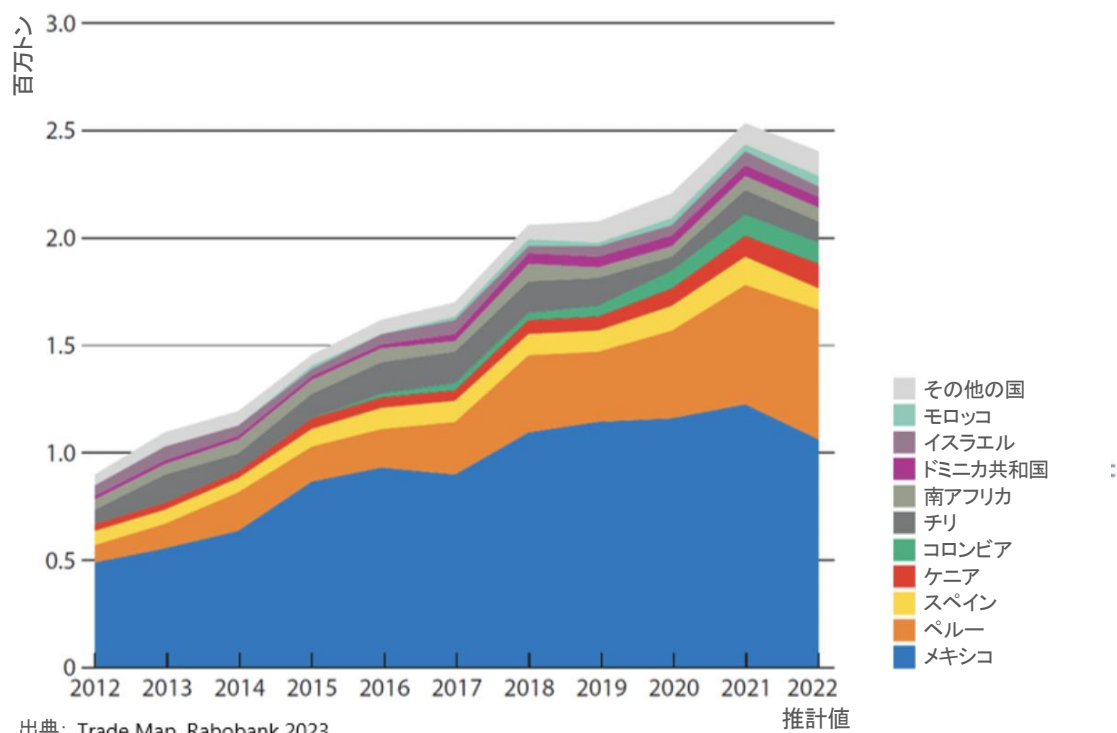
メキシコは依然として最大の輸出国であり、2022年にも100万トンを超えている。チリ、コロンビア、ケニア、ペルー、スペインからの輸出も増加しており、ペルーが年平均成長率22%で牽引している。

トップ10のリストに載っている唯一のアフリカの国であるケニアは、2012年から2022年の間に輸出量を15%増加させ、現在、年間200万トン近いアボカドを輸出している。

2012年にはアボカドを全く輸出していなかったコロンビアは、近年輸出市場に参入し、2022年の輸出量は9万9千トンに達した。

輸入に関しては、米国が依然として世界最大のアボカド輸入国であり、10年間で8%増加し、メキシコが主要な供給国となっている。チリは、輸入国上位10か国の中で輸入量の増加を主導しており、2012年の1千トンから2022年には5万9千トンとなった。

図3 世界のアボカド輸出量は過去10年で力強い成長



持続可能性

アボカド産業は、持続可能性の問題に言及せずに論じることはできない。これは、特に水の使用に関して、業界がどれほど持続可能であるかを懸念している生産者、輸出業者、輸入業者及び消費者にとって重要な事柄になっている。

報告書はこの問題を取り上げており、業界が「アボカドの栄養上の利点と持続可能性の問題について消費者教育を行う努力を強化している」ことを示している。

気温の上昇とアボカドの生産に伴う高い水需要により、世界中のアボカド生産者は水の使用を最適化するために、新しく高度な灌漑システムを取り入れることを余儀なくされている。報告書によると、コロンビアやドミニカ共和国などの熱帯諸国では、生産は主に天水に頼っている。一方、イスラエル、チリ、南アフリカなどの国では、降雨が特定の月に限定されるため、生産者は灌漑で補完することを必要としている。